

令和3年度 宮崎県立日南高等学校 学校評価

<p>学校経営 ビジョン</p>	<p>○創立100年を超える県南地域の伝統校としての経験を生かし、教育活動全体を通して知・徳・体をバランスよく確実に身に付けさせ、すべての生徒の進路目標達成を目指す学校 ○EXCELSIORを校是とし、向上心をもって何事にも果敢に挑戦し、主体的に充実感あふれる有意義な高校生活を送ることのできる生徒の育成を目指す学校 ○地域と連携した教育活動を積極的に展開し、保護者や地域の信頼に応え、地元を愛し地元へ貢献しようとする生徒や国内外に目を向けグローバルに活躍しようとする生徒の育成を目指す学校</p>	<p>学校関係者評価のポイント ・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか ・自己評価の結果は指標等を基にした妥当なものであるか ・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか ※ 自己評価、学校関係者評価とも、1～4の4段階評価とする 4:期待以上 3:ほぼ期待通り 2:やや期待を下回る 1:改善を要する</p>
<p>本年度の 重点目標</p>	<p>【学習指導の充実】 ・授業力の向上 ・フレキシブルタイムにおける個別指導の充実 ・「フェニックスナビ」の有効な活用 ・小論文指導の充実 ・資格取得指導の徹底 ・図書館活動の充実推進 ・新学習指導要領の実施に向けての教育課程の編成 【生徒支援の充実】 ・基本的な生活習慣の確立 ・豊かな人間性と規範意識の醸成 ・部活動の充実強化 ・教育相談体制の充実 ・学校行事やボランティア活動等への自主的で積極的な参加 ・命を大切にする教育の充実 ・人権教育の推進 【進路支援の充実】 ・大学入学選抜制度改定に合わせた進路指導の在り方の研究と実践 ・大学入学共通テストに向けた対策の研究 ・電子調査書への対応の研究 ・進路希望に応じたガイダンスの充実 ・「未来戦略課」の更なる発展と充実 【信頼される学校作り】 ・家庭、中学校や地域との連携 ・広報活動の充実 ・地域人材や卒業生の活用 ・定員の確保 ・創立100周年記念事業準備と実施、同窓会との連携 ・適正な学校事務の運営と施設の修繕・整備</p>	

重点目標	評価項目	取組(P)	自己評価(A)		学校関係者評価
			方策・手立て(D)、結果の考察・分析及び改善策等(C)		
			具体的意見		
1 学習指導の充実	①基礎学力の定着と学力向上	<p>(1) 「フェニックス・ナビ」の活用、学習相談会の実施を通して、個に応じたきめ細かな指導を実践し、基礎学力の定着を図る。 (2) 自主的に学ぶ姿勢を身につけることを目的とした個別指導の時間、フレキシブルタイム等の充実を図る。 (3) ICTの活用、良問研究など、各教科の課題に応じた授業研究の充実を図り、基礎学力及び発展的な学力の向上に資する。</p>	<p>○ 期末考査前に学習特別指導の期間を設定し、考査に向けての細かな指導を行った。また、学習相談会では学習の進め方等について具体的な説明を行った。 ○ フレキシブルタイムについては各学年で工夫をしながら有効な活用ができていた。3年生の推薦入試指導や個別添削指導での有効な活用も見られた。生徒が自主的に学習を進められるような活用の在り方については、さらに工夫をしていきたい。 ○ Google Classroomについては、資料の配付や、アンケート調査、課題指示、個別添削指導など、活用が進んでいる。研究授業週間でICTを活用した授業実践事例を共有することができた。基礎学力及び発展的な学力の向上に向けてさらに研究を進めたい。 ○ 次年度入学生からの1人1台端末の導入に伴い、この活用について研究が急務である。</p>	4	<p>○ 「フレキシブルタイム」の活用については、生徒それぞれがタイムリーに必要な科目を有効に習得できる時間となり、効果は高いと思われる。特に3年生の推薦入試対策での工夫と成果を感じる。一方「宿題をする時間」になり自宅学習量が減らないか心配である。活用の在り方をさらに工夫していきたいとの自己評価もあるので、今後も改善に向けた研究を継続してお願いしたい。</p> <p>○ 1年生を対象にした図書オリエンテーションや朝読への指針が職員・生徒間で共有され、読書活動が展開されている。読書離れが進む中において、10分間読書は読書に親しむとともに学力全体のスキルアップが期待できる取組である。読書が大学入試の新傾向に直結していくことも生徒に具体的にご指導いただきたい。</p> <p>○ 定期テスト前の個別指導の細やかさが、以前と比べ行き届いている。生徒もプラスに捉えている様子なので、継続してご指導いただきたい。</p>
	②教育課程と学校行事の研究	<p>(1) 新学習指導要領改訂に合わせ、本校の特長を生かした教育課程の編成を行う。 (2) 生徒・職員が意欲的・主体的に取り組むことができる年間行事の策定を目指す。</p>	<p>○ 各教科会で、次年度からの観点別評価や教科シラバスについて検討し、評価の観点を整理するとともに、授業改善につなげた。少人数での授業や、習熟度別の授業展開など、生徒の適性や進路目標に応じた授業の在り方など、さらに工夫したい。 ○ エクセルシア祭の直前に生徒の活動時間を十分に確保したり、特編授業に教科や学年の意向を反映させたりした。各種検定やコンテストに取り組みやすい年間行事の策定をさらに目指したい。</p>	3	
	③読書活動の充実と図書資料活用能力の育成	<p>(1) 職員・図書委員会・放送部と連携し、「朝の10分間読書」を円滑に行い、読書へのきっかけづくりとする。 (2) 図書館内配置を工夫し、来館と学習活動につながる雰囲気づくりを行い、貸出数及び読書量の増加や、蔵書の有効活用により大学入試・就職試験に対応できる実力の養成を図る。 (3) 図書委員の活動として通常業務に加え、読書推進期間については、来館者増加のために、「おすすめ本の展示」や新刊本PR活動などを、積極的に取り組ませる。 (4) 読み聞かせボランティアを計画し、生徒の積極的な取組みのもと、読書の素晴らしさを広める活動を推進する。</p>	<p>○ 4月当初に職員及び生徒に朝課外のある日は朝読書を実施するという指針を口頭及び掲示で示し、テスト3日前からは中止という形で今年度は実施した。また、昨年に引き続いて担任や副担任だけでなく、各クラスに所属する図書委員がメインで朝読書の運営を担うよう位置づけた。 ○ 読書推進期間やエクセルシア祭などで積極的に図書委員としてPOP展やミニ・ビブリアバトル、期末考査時の店頭購入など生徒の来室につながるような取り組みを行うと共に、SDGsやLGBTQなどの関連の書籍の充実を心がけた。 ○ 職員との連携が昨年度の課題であったため、朝読書時にクラスを越えての声かけを年間を通じて行った。特に1年生は「朝課外あり＝朝読書あり」の習慣が根付きつつあるため、進級後も継続させていく。なお、朝読書用の本について、意識付けとして連休明けにクラス担任から事前にアンケートを取り、朝読書用に集団読書用図書を活用して、一定期間クラスで同じ本を読む機会を設けた。 ○ 一部の生徒は来室が頻繁だが、まだ3年間全く来室しない(それに近い状態の)生徒もおり、全員が有効活用できているとはいえない。 ○ 読書が当たり前の習慣となるように年度始めに1年向けに例年通り図書オリエンテーションを行った。その際に、担任からの事前の声かけやその後の授業での積極的な図書館利用などもあり、生徒たちの貸出→返却→貸出のルーティーンが継続している。その結果、今年度の年間の生徒一人あたりの貸出冊数が6.2冊となった。(1年:9.9冊、2年:3.8冊、3年:5.3冊)ただ、学年によってバラつきがあるため、今後も全学年を通じて、教員との協力を含めた取り組みが必要である。</p>	3.4 4	

2 生徒支援の充実	①基本的生活習慣の確立、および豊かな人間性と規範意識の醸成	<p>(1) 生徒相互のあいさつの活発化と日常化を図るために、生徒会や部活動生を中心に朝のあいさつ運動に取り組む。</p> <p>(2) 身だしなみの意識改善を図るために、授業等での常時指導を全職員で徹底するとともに、定期的な服装容儀指導を実施する。</p> <p>(3) 社会のルールとマナーを守り、分別のある行動ができ、他人への配慮を忘れず、人間性・協調性に富んだ生徒を育成すると同時に、教員自身が率先垂範に努める。</p> <p>(4) 生徒の個性を尊重し、人命尊重の精神を育成し、いじめのない環境を醸成するために、生徒一人ひとりに目を配り、居場所作りに努める。</p> <p>(5) 規範意識の高揚を図るために、時間厳守、礼儀作法など、社会の常識や秩序を正しく理解させ、高校生として取るべき行動とは何かを考えさせる。</p>	<p>○一年を通して、部活動生を中心に正門前でのあいさつ運動を行うとともに、職員もあいさつ運動に加え風紀指導を行った。この活動はあいさつや風紀指導のみならず、生徒の表情観察や交友関係の把握もできることから、生徒理解のための重要な活動として考えている。</p> <p>○各学期の始業日と定期考査の最終日に学年毎に服装容儀指導を行っている。目立った服装の乱れはないが、頭髪で指導を受ける生徒が見受けられる。</p> <p>○規範意識の高揚を図るための第一として、「時間厳守」を上げている。遅刻する生徒は極少数であり、授業も落ち着いて開始できている。職員も余裕を持って教室に行き、生徒の様子に目を配っている。</p> <p>○人権教育は3年間を見通した一貫した指導計画を立て、学期に1回のペースで実施しており、いじめ問題や人権問題について考え、人権意識や規範意識の高揚を図った。また、そのたびに「セルフチェック」も実施し、自分自身の行動を振り返る機会とした。</p> <p>○LGBTに配慮し検討を進めてきた女子スラックスを、今年1月から導入し、現在1年生1名が着用している。新年度からはもう少し増えるのではないかと予想している。</p>	3	<p>○学校で学べる社会のルール（提出物、時間、校則）に今後力を入れてほしい。</p> <p>○校則改定を進めている生徒会の活動が頼もしい。「どんな学校にしたいのか」生徒や保護者とのビジョンの共有を大切にして欲しい。</p> <p>○スラックス導入や生理用品配備などスピード感を持った取組は評価できる。</p> <p>○部活動の途中退部がここ数年多いように感じる。1年生の部活動全員加入の影響か？部活動の意義を理解させ、文武両道を目指す取組の強化をお願いしたい。部活動の活性化が生徒数増にも繋がると思う。</p> <p>○コロナ対策を徹底し工夫しながら行事を実施されていた。各行事において教師が生徒とともに歩む姿に心を打たれた。</p> <p>○スマートフォンが普及しているため、トラブルに巻き込まれないような対応を家庭と協力してほしい。</p> <p>○生徒への相談対応については、引き続ききめ細かな対応をお願いしたい。</p>
	②部活動の充実強化、および学校行事やボランティア等への自主的で積極的な参加	<p>(1) 帰属意識を高めるとともに、生徒の自主性を育成するために、生徒主体の運営を促し、生徒会活動や各種委員会活動、部活動や学校行事等の活性化を図る。</p> <p>(2) 勤労の尊さや相手の立場に立って考えることの大切さを理解できる生徒、シティプライドを持った生徒を育成するために、ボランティア活動や地域行事への積極的な参加を促す。</p> <p>(3) 部活動の意義を理解し、部活動で学んだことが日常生活や学校生活で生かせる生徒を育成するために、1年生全員の部活動加入を推奨し、文武両道を目指すとともに、奨励部を中核として部活動の活性化を図る。</p> <p>(4) 情報端末（携帯電話など）の適切な使用について考えさせ、メールやSNSによる誹謗・中傷をはじめとする様々なトラブルを防ぐために、「日南高校スマホ等利用五箇条」に基づいた指導を徹底する。</p>	<p>○学校行事や部活動は、新型コロナの影響で中止や延期、規模縮小などの制限を受けながらも、可能な限り練習の成果や取り組みの発表の場を確保することができた。数年ぶりに陸上部が全国高校総体に出場したり、書道部が全国高校総合文化祭で上位入賞したりするなど活躍した。</p> <p>○昨年度の試行期間を経て、今年度からスマホ等の校内持ち込み許可を本格化した。多くの学校が校内での使用を禁止しているが、本校では時間と場所を設定して使用を認めている。使用を禁止するよりも、ルールを守り正しく使う指導も大切であると考えたからである。</p> <p>○スマホ等によるSNS上のマナーアップと、正しい判断力を持ってトラブルを回避できるよう、情報モラル教室を年度当初に実施した。また、薬物乱用防止教室も実施し、薬物の危険性や身近に迫る危険などを認識できた。</p> <p>○昨今、校則の改定に取り組んでいる学校が多い。本校もその一つであるが、生徒と教師がお互いの考え方を理解するため、生徒会執行部と生徒支援部職員との話し合いを2回行った。生徒会が中心となってアンケートを実施したり、要望書を提出するなど、生徒が主体性をもって校則改定に向けて努力している。</p>	4	3.4
	③心身の健康への意識向上及び教育相談活動の充実	<p>(1) 定期健康診断等の結果をもとに生徒の健康状況を把握し、必要に応じて、家庭や関係機関と連携を図り、健康の保持増進に努める。</p> <p>(2) 健康観察・保健室での様子・教育相談アンケートから生徒の心身の変調を早期に把握し、心の問題については教育相談担当を中心としながら、状況に応じて専門機関と連携し、迅速かつきめ細かな対応を行う。</p> <p>(3) 特別支援に関する職員研修・講演会の実施、関係する保護者・職員・外部機関との連携を通して、支援が必要な生徒が学習しやすい環境を整える。</p>	<p>○各種の健康診断結果をもとに健康相談や医療機関への受診を促した。また、保健室より発行する「保健便り」を通じて、生徒の心身に対する知識や意識の向上に努めた。</p> <p>○年間3回（各学期1回）の教育相談アンケートを通じて、生徒の不安や悩みの解消に努めた。状況に応じて、県のスクールカウンセラーを要請し、本年度5回のカウンセリングを実施した。今後も学校、家庭（保護者）、専門機関と連携協力し、きめ細やかな対応を行っていききたい。</p> <p>○南九州大学名誉教授である佐保忠智先生を講師に「教育相談の心を生かした生徒指導の在り方を求めて」と題して、教育相談研修会を行った。研修会で学んだことを参考に、担任・副担任をはじめ全職員が連携協力し、共通理解のもと支援が必要な生徒への対応を図っていききたい。</p>	4	
	④環境美化活動と清掃奉仕活動の充実	<p>(1) 環境美化に生徒・職員が一体となって取り組むことができる体制を整備し、快適な学習環境・職場環境の維持を図る。</p> <p>(2) 美化委員会を中心とした環境美化活動を推進し、生徒の美化意識と奉仕の精神の喚起・啓発に努める。</p> <p>(3) 地域と連携した清掃奉仕活動を実施し、地域に根ざし、地域から信頼される学校づくりに寄与する。</p>	<p>○放送委員会の協力のもと、清掃前のアナウンスを依頼し、全職員及び全生徒への呼びかけを行った。その結果、職員生徒が共に環境美化に取り組む姿が見られた。</p> <p>○年3回（各学期1回）の清掃強化週間を設定し、美化委員会を中心に学校全体で清掃美化に努めることができた。また、2学年団へ協力依頼し、各クラス年1回のLHRにおいて校内清掃奉仕活動を実施した。</p> <p>○日南市との連携事業でもある「1学年飯肥駅清掃活動」を実施することができた。3月3日（木）が本年度最後の清掃活動を予定している。また、JR日南線構内美化作業ボランティアには91名の生徒が参加し、予定していた時間を超過したにも関わらず熱心に取り組む姿が見られた。</p>	3	

重点目標	評価項目	取組(P)	自己評価(A)		学校関係者評価
			方策・手立て(D)、結果の考察・分析及び改善策等(C)	具体的意見	
3 進路支援の充実	①生徒が有する多くの要求に応えるための企画や指導方法の研究と実践	<p>(1) 3年生は各コースの特性を生かした進路支援を実践し、前年を上回る進路達成を実現する。</p> <p>(2) 校内・校外模試については、結果の迅速な分析を行い、学力向上を目指すとともに、早期の進路決定と目標実現のための支援を強化する。また、種々の資料やデータを有効に活用し、進路支援に生かす。</p> <p>(3) 分野別教養講座・オープンキャンパス・看護体験・ボランティアへの参加を通じて生徒の経験値を高めて、ポートフォリオ等の活動の記録やその保管方法を工夫する。</p> <p>(4) 総合型・学校推薦型・一般選抜の各入試への対応として、6月以降、小論文・面接指導を職員全体で行う。</p> <p>(5) 1・2年生の学力検討会、3年生の進路検討会の時間を確保し、学力向上に向けたタイムリーな方策を打ち出す。</p> <p>(6) 生徒だけでなく家庭に対しても、適切な進路情報を継続的に提供する。</p>	<p>○1・2年生については8月と12月に学力検討会を実施した。対外模試の成績をもとに事後の指導方針や具体的対策について検討し、課題への取り組みの徹底や、FTや土曜講座を利用した選択制講座の実施、年度末テストの実施につなげた。3年生については、11月に進路検討会を実施して各生徒の成績・進路希望状況を共有し、1月の進路検討会では生徒が志望に挙げている大学だけでなく、それ以外の可能性について検討し、選択の幅を広げることで出願先決定につなげることができた。</p> <p>○昨年度実施を見送った分野別教養講座を、11分野の大学の先生方に依頼して実施した。各教室にプロジェクターとスクリーンが設置されたことにより、準備がかなり軽減されたことに加え、無線LANも整備されたため、オンライン講座も企画しやすくなった。今後、対面型と併用して進路講座を企画していきたい。</p> <p>○今年度は80名の生徒が総合型・学校推薦型選抜に出願し、そのほとんどに小論文や面接指導の職員を割り当てて受験指導を行った。国公立大学については24人中11名が合格し、約46%の合格率となった。</p> <p>○看護体験については、規模は縮小されたもの医療機関のご協力のもと実施できた。卒業予定者の内20名が看護系大学・専門学校に進学予定で、その内19名が看護体験や看護説明会に参加しており、進路実現につながっているものと思われる。</p> <p>○就職希望者は年度当初8名おり、その内4名は進学に転じた。1名は縁故就職で3名は自衛隊に内定している。就職希望者の傾向としては地方公務員及び自衛隊希望者がほとんどである。公務員試験対策として、3年生の実践進路の授業に専門学校の講師を招聘して指導を依頼した。自衛隊希望者については、地元の連絡事務所と連携して対応した。成果として、自衛隊は全員内定し、うち一人は難関の航空学生に合格した。地方公務員については合格がなかった。独特な公務員試験に対応するためには早期の意識づけが必要であるため、1月から1・2年生向けの放課後オンライン公務員講座を実施し、現在12名が受講している。</p>	4	<p>○コロナ禍の中、校内進路相談会、教員向け研修会などをオンラインで実施し、「型にはまらない」方策により進路支援を進められた点は良かった。</p> <p>○推薦入試前の小論文、面接等の指導の細やかさを感じた。先生方の時間とエネルギーは相当なものと感じた。その成果が合格数に表れている。今後も生徒の将来のために継続した支援をお願いしたい。</p> <p>○担当する先生で経験や知識の違いがあるので、生徒へ情報提供の内容は複数の先生で共有・協議するなどして一人ひとりに偏りのない進路指導をお願いしたい。</p> <p>○入学時点で具体的な進路目標が決まっていなくても、高校で基礎学力を付けることでなりたい職種や行きたい学校の選択肢が増えていくのが普通科の利点である。目標が定まっていないうち中学生を積極的に受け入れて支援していただきたい。</p> <p>○未来戦略課の活動については、アクティブラーニングを取り入れた素晴らしい活動である。さらに取組を強化して、地域に発信し根付かせて欲しい。</p> <p>○1年生から定期的な情報提供などを行い、保護者も含め、早めの支援をお願いしたい。</p>
	②進路支援体制の構築とキャリア教育の推進および計画的実施	<p>(1) コースや類型に対応した、3年間を見通した進路支援体制を構築する。</p> <p>(2) キャリア教育について、キャリア教育推進委員会を中心とした各校務分掌や教科との連携を密にし、より体系的・組織的に計画、実践する。また、「日南高校未来戦略課」の更なる発展と充実を努める。</p> <p>(3) 「大学入学共通テスト」・「新様式調査書」・「ガイダンスの充実」に対する対策を研究して、学校全体での共通理解を深める。</p>	<p>○7月に2・3年生向けの校内進路相談会を企画し、4年制大学20校、短期大学4校、専門学校など29校が体育館にブースを作り、生徒向けの進路説明を行った。オープンキャンパスへの参加が難しい状況で、大学等職員に直接相談できる機会を設けることができたのは良かった。</p> <p>○11月に1年生向けの進路ガイダンスを企画し、21分野の講座を準備、その内3分野を受講できるようにした。講師については県内は対面で、県外はオンラインで依頼した。来年度は教育課程説明会前に実施し、教育課程登録に活用させたい。</p> <p>○日南市の補助を受け、1・2年生の希望者を対象に北九州予備校宮崎校の冬期講習会に4日間参加した。例年は小倉校に宿泊を伴って企画していたが、昨年度は新型コロナの影響で日南市内でオンライン参加となった。対面式の講義を浪人生に交じって受講したいという生徒の意見を踏まえ、今回は宮崎校で企画した。参加者アンケートの評価は良好で、進学意欲が高まったという意見が多く、来年度も同様の企画を立てたいと思う。</p> <p>○教員向けの研修会として、1学期末に小論文指導研修会（オンライン）、2学期中旬に高大接続研修会を行った。総合型や学校推薦型の入試では小論文の必要性が高いため、今後も充実した研修会を企画していきたい。</p> <p>○未来戦略課の発展・充実について連携が不十分であるため、探究活動が進路実現につながるよう取り組んでいきたい。</p>	3.5	
	③学力向上を目的とした個別指導の実施	<p>(1) 朝課外と夕課外の実施方法を検証し、より効果的なものとする。</p> <p>(2) 早朝・放課後の時間やFTを活用し、各学年において個に応じた指導を実践する。</p> <p>(3) 土曜講座や長期休業中の課外の在り方を検証し、さらなる工夫・改善を行い、進路実現に向けての学力の定着を目指す。</p> <p>(4) 課題テストの事前・事後指導の在り方や、評価の仕方について検証し、有効な活用法を策定する。</p>	<p>○授業内容を補完し、知識・理解を思考・判断につなげるための時間として、全学年に朝課外・土曜講座、加えて3年生には夕課外も実施した。土曜講座や夕課外では一部選択制講座を取り入れる等、生徒の実態や要望に応じた企画や柔軟な取り組みを各学年と連携しながら行うことができた。</p> <p>○家庭学習の習慣化や基礎学力の定着の手段として課題テストを実施しているが、教員間の共通理解や生徒への意識づけを深めることと、観点別評価への反映のさせ方を検討する必要がある。</p> <p>○FTの時間を利用し、成績上位者を対象に少人数指導を行っている。旧帝大や医学部医学科に継続的に挑戦する生徒を支援する体制を整えていきたい。</p>	3	

4 信頼される学校作り	①地域社会との良好な関係の形成	<p>(1) 高校説明会・オープンスクール・教育課程説明会を活用して地域社会に情報を発信し、志望者の増加を図る。</p> <p>(2) 学校の取り組みを広く紹介し、地域の学校としての理解と協力を得られるよう学校案内パンフレット・学校紹介ポスター・ホームページ等の充実を図る、</p> <p>(3) 各種行事・式典・入試業務等を適切・確実に実施することで、地域社会の信頼と協力を得られる学校作りに貢献する。</p>	<p>○高校説明会は新型コロナの感染予防の観点から規模縮小や分散実施の中学校が多かった。オープンスクールでは生徒会及び2学年生徒が中心となって本校の魅力発信に貢献した。中学3年生対象の「寺子屋」は101人が受講し、探究科学コース1・2年の生徒がリトルティーチャーとして指導を行い、中学生の満足度が非常に高かった。今後も生徒が地域社会に情報を発信できる取り組みを充実させたい。</p> <p>○学校案内パンフレット、学校紹介ポスターは101年目のイメージを意識して作成した。また、日南高校便り「エクセルショー」では学校の様々な取り組みを紹介し充実した内容となった。また、YouTubeに学校PR動画（生徒企画）をアップしたり、高校説明会用に動画を作成したりして、新たなスタイルでのPR活動に挑戦した。</p>	3	<p>○生徒数の減少はやはり気がかりである。今年度は校長を先頭に生徒確保に向けて具体的に取り組まれた点は高く評価したい。</p> <p>○創立100周年記念式典が盛大に挙行された。式典は、現・旧教職員、在校生、保護者、同窓生、地域の方々の思いが一つになった「瞬間」であり「場」でもあった。</p> <p>○「合勝うどん」に学年の壁を越えてたくさんの保護者が参加されていた。良い学校だと素直に感じた。保護者の方々も楽しく参加された様子で信頼の厚さを感じる。</p>
	②学校安全体制の確立	<p>(1) 生徒・職員の命を守るために、危機管理マニュアル・学校安全計画の策定、学校安全研修・避難訓練の実施、事故・災害時対策（組織整備・備蓄品等）に取り組み、安心・安全な学校を目指す。</p> <p>(2) 地域及び関係機関と連携して効果的な避難訓練及び研修を実施し、地震・火災等の緊急時に迅速・適切に行動できる集団の形成を図る。</p>	<p>○本年度「学校安全総合支援事業」の推進校として研究指定を受け、危機管理マニュアル、学校安全計画等、これまでの既存の事業を見直すことができた。2回の避難訓練、2回の防災教育講演会、心肺蘇生法講習会、職員研修会、校内危険箇所点検調査等を実施し、生徒及び職員の防災に対する知識や意識の向上に努めた。また、今年度新たに2学年生を中心に防災に関わる進路希望の生徒から「学校安全生徒推進委員」5名を選出し、防災リーダーの育成を図った。本事業の一環で実施した「学校安全実践地域訪問」では、宮城県を訪問させていただき、南三陸町、気仙沼市、石巻市の震災遺構や復興の様子を見ることができた。実際に訪問したことで、改めて地震や津波の恐ろしさを知ることができた。</p> <p>○研究指定に伴い、構築できた各専門機関や専門家の方々との指導助言を参考に今後も防災教育に推進していきたい。</p> <p>○保護者連絡メールにはほぼ全家庭加入してもらい、非常時の連絡を速く確実にを行う体制を整備し活用できた。</p>	4	<p>○「寺子屋にちなん」は評判が良く、学力向上以外にも、学校を知る、先生を知る、先輩を知るという大きな役割を担っている。継続をお願いしたい。</p> <p>○情報発信をもっとして欲しい。生徒の様子、学校の様子をリアルタイムで見たい。日南高校便り「エクセルショー」を学校ホームページに掲載するなどしてはどうか。Facebookはやっていない人もいるのでホームページを充実させてほしい。</p>
	③組織的なPTA活動の展開と広報活動の活性化および創立100周年記念事業の推進	<p>(1) 各種PTA活動の充実を図り、内容の工夫により各行事への参加者の増加を目指す。</p> <p>(2) 本校の各種学校行事やPTA活動を円滑に推進し、その活動を保護者をはじめ、中学校を含む地域へ発信していく。その手段の一つとして、刊行物「若潮」（PTA新聞）の内容・レイアウト等の工夫・改善を図る。本校教育活動の記録として、紀要「天杉」を年度末に発行する。</p> <p>(3) 今年度11月創立100周年記念式典に向けて、同窓会と連携して準備していく。</p>	<p>○コロナウイルス感染拡大防止のため、多くのPTA行事の中で全保護者が参加できた行事は「PTA総会・合勝うどん」のみであったが、「学習・広報・母親・生活」委員会の中には、ZoomやYouTubeなどを利用し、工夫した活動も見られた。「地区会」は、1年保護者集会やアンケートで学校への要望等をまとめた地区もあった。保護者がPTA行事に参加し、生徒達の活動を見たり、進路学習や教職員との交流・意見交換することで学校も発展していくと思うので、早くコロナが収束することを願う。</p> <p>○昨年度、宮日PTA新聞コンクール「優秀賞」であった「若潮」（広報委員会）は、PTA行事の中止等もあり、記事を工夫して毎学期発行している。保護者を通じて、地域への発信ができていくと思う。</p> <p>○紀要「天杉」を年度末に発行し、本校教育活動の記録として、100周年記念誌の編集等に役立った。</p> <p>○令和3年度「100周年記念式典」は、コロナウイルス感染防止を徹底しながら、全職員・PTAの協力と生徒達の活躍で「エクセルショー」をアピールでき、来賓の方々から感動したと感想を頂き、成功裏に終わった。生徒は「100年の歩み」の視聴によって、スローガンとして掲げられた「百年の伝統を今ここにそして未来へ」を実感する本校の長い歴史と培われてきた伝統を認識する節目となった。記念事業としてICT機器が設置され、授業の充実に大いに貢献している。また、校旗も新調した。</p>	4	<p>○例年であれば保護者や地域の方が学校に足を運んで学校の様子を知ることができたが、近年はコロナの影響で難しくなった。今後はこれまで以上にインターネットを活用した広報活動が重要となるので、ホームページのアップやネット配信に積極的に取り組んでもらいたい。</p>